

## 令和5年度 慶進中学校・高等学校 学校評価書

1 学校教育目標	
教育理念 (スクールミッション)	建学の精神「至誠」のもと、「独立自尊」「至誠一貫」「敬愛感謝」の校訓を具現化した教育の実践、多様な価値観に触れる教育活動の実践により、生徒一人ひとりが自らがかけがえのない大切な存在であることを自覚し、「強い志」「高い学力」「高い人間力」を身につけ、社会に貢献する人材を育成する。
ビジョン	教育理念の確実な実現に向けて、Society5.0の時代に求められる新たな資質、能力を兼ね備えた人材を育成する、地域に不可欠な全国有数の進学校をめざす。

2 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題
(1) 組織力の強化と教育の質の向上 (2) 生徒募集活動の強化

3 自己評価					4 学校評価総括及び学校評価委員会	
領域	目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	取組と課題及び学校関係者の意見・要望	評価
学習指導	基礎学力の定着	国・数・英、3教科の「基礎学力定着目標」により取組を進める。	国語・数学・英語の「基礎学力定着目標」に示された目標達成数値の割合(各教科20点)(国20+数20+英20)/60×100[%] 4:50%以上 3:40%以上 2:30%以上 1:30%未満	4	○ 3教科の目標達成数値は65.5%であり本年度の目標は達成できている。昨年度からICT推進室とも連携し、学習アプリ「Monoxer」を活用しているが、生徒は主に英単語の暗記に意欲的に活用しており効果が認められている。今後、MonoxerやMexcbtといったICT学習アプリの有効性を各教科に周知していく。  ○ 生徒アンケートの肯定的評価は75.4%で、昨年度から5ポイントの伸びを示している。全校集会や学校行事において、教育目標の達成に向けてルーブリック活用の大切さを生徒に周知した。教員も活用することにより、教育活動の改善につながっており次年度も継続した取組を続けていく。  ○ 生徒アンケートによると、55.8%の生徒が参加しており、前年度からは約22ポイントの伸びを示している。主に探究活動(総探)や行事において、積極的に取り組んでいる。生徒の自主的な探究活動を深化させるため、引き続き実施状況の的確な把握に努めていく。	B
	スクールポリシーに基づいた新学習指導要領に対応する教育活動の推進	ルーブリックブックの活用を推進する。	生徒アンケートで、「自分が成長できるように努めていますか」の肯定的評価の割合 4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:50%未満	3		
	課題解決型学習、STEAM教育を取り入れた「慶進コンピテンシー12」を養う教育の実践	コース・教科・行事等での実施状況を把握し、生徒の自主的な探究活動を深化させる。	生徒アンケートで、「活動の表現の場(プレゼンテーション等)」に参加した生徒の割合 4:70%以上 3:50%以上 2:30%以上 1:30%未満	3		
生徒指導	生徒の自主性・自律性の育成及び学校行事のさらなる充実	慶進祭、スポーツフェスティバル(中)、体育祭(高)、クラスマッチ(中、高)に関する生徒満足度を高める。	生徒アンケートで、「学校行事・生徒会行事」に関する生徒満足度の割合 <b>【高】</b> <b>【中】</b> 4:80%以上 4:95%以上 3:70%以上 3:90%以上 2:60%以上 2:85%以上 1:60%未満 1:85%未満	4(高) 3(中)	○ 生徒アンケートでは高校81.3%、中学90.1%の生徒が満足感を示しており、生徒会や3年生を中心に行事の満足度を高めることができています。但し、中・高とも行事の際に生徒会役員による準備・説明が不足していた場面が一部見られた。計画的に準備を進めるとともに、行事の目的・内容が徹底されるように努めていく必要がある。  ○ 校内外を問わずスポーツ・芸術活動に参加している生徒は47%であり、加入していない生徒の方が上回った。生徒の意欲・関心を高め、目的意識をもたせ、どのようなレベルで活動に関わりたいのかということに対応していく必要がある。活動しやすいような環境整備にも努めていく必要がある。  ○ アンケートによると、高校87.4%、中学73.4%の生徒が他者を傷つけることばを遣っていない。講演会・LHR等の人権教育関連行事も計画どおり実施し、各行事後の生徒アンケートも高い肯定的評価を示していた。今後は生徒同士の直接的な関わりだけでなくSNSの使い方やマナーについての教育をさらに進めていく必要がある。	B
	スポーツ・文化芸術活動への主体的取組に向けての部活動指導と環境整備	校内外を問わず、スポーツや文化芸術活動に取り組む生徒を増やす。	スポーツ・文化芸術活動(校内外)に加入している生徒の割合 4:70%以上 3:50%以上 2:30%以上 1:30%未満	2		
	自他の人格を尊重し思いやりの心をもった生徒の育成	毎週、いじめ対策委員会を開催し情報交換・共有を図るとともに、高校は月に1度、中学校では週に1度のいじめアンケートを実施する。	生徒アンケートで「他者を傷つけることばを言わなかった」割合 <b>【高】</b> <b>【中】</b> 4:95%以上 4:80%以上 3:85%以上 3:70%以上 2:75%以上 2:60%以上 1:75%未満 1:60%未満	3(高) 3(中)		
キャリア教育	生徒の進路選択における主体性の育成及び希望進路実現のためのサポート体制の構築	先輩の体験談、社会人講話等を効果的に設定し実施する。	体験談、社会人講話等の開催回数(各コース計) 4:6回以上 3:5回 2:4回 1:3回以下	4	○ 各コース合せて8回の講座を実施した。基本的には、本校の卒業生を講師として招聘し、自身の体験を中心に、したキャリア形成に係る講話であった。生徒には大変好評であり、次年度も効果的に設定・実施していきたい。  ○ 学級担任・進路部を中心に、各コース・学年とも3回以上の進路相談を実施した。特に担任による相談はLHRを始め、昼休み、放課後等を活用し柔軟に対応している。今後は、生徒の進路決定に係る主体性の育成に資するものであるかどうかの評価が必要である。	A
		各コースと連携し適切な時期に効果的な進路相談を実施する。	進路相談実施回数 4:3回以上 3:2回 2:1回 1:0回	4		

人権教育	生徒の人権尊重の意識の高揚を図るとともに、生徒一人ひとりを大切にする教育の組織的・計画的な推進	人権教育に関するLHR、学級活動、講演、体験活動等を実施し、教育活動全体をとおり人権教育の深化を図る。	生徒アンケートで、「人権学習関連行事」に関する肯定的評価の割合 4：90% 以上 3：80% 以上 2：70% 以上 1：70% 未満	4	○ 人権をテーマとした講演会を2回、LHRを1回開催したが、生徒アンケートによる肯定的評価は98.4%と高い数値を示している。生徒はもちろんであるが、教職員自身の人権意識の高揚も常に図る必要がある。 また、生徒指導領域でも述べたように、SNSの利用方法やマナーについての教育もさらに進めていく必要がある。	A
地域連携活動	地域との連携・協働による地域社会への貢献をとおりた学びの推進	ボランティア活動、郷働ネットにおける地域貢献活動を推進する。	生徒の、ボランティア活動や郷働ネットに参加した活動のFeelnoteへの掲載率 4：80% 以上 3：50% 以上 2：20% 以上 1：20% 未満	2	○ 地域連携教育推進委員会を組織し、生徒の活動を推進してきた。地域貢献活動へは延べ405人（実人数205人）の参加があった。生徒の活動の機会も増え、参加生徒にとっては人間力の育成につながった。Feelnoteへの掲載率は24%であったが、作成は生徒の負担になることが懸念されることから次年度は活動への参加率を評価基準としたい。	C
健康・安全教育	保健室・相談室の利用、カウンセラーのコンサルテーションの充実	保健室利用満足度を維持し、SCによるカウンセリング満足度の向上を図る。	生徒アンケートで、「保健室利用」満足度の肯定的評価の割合 4：90% 以上 3：80% 以上 2：70% 以上 1：70% 未満	3	○ 生徒アンケートによる肯定的評価は88.5%で、昨年度より2.5ポイント下落した。カウンセリングについては年間計画どおり進行しているが、急なカウンセリングを希望する生徒も増えている。今後は、このような突発的なカウンセリング希望への対応について検討する必要がある。 ○ 安全教育に関する講話・訓練を6回実施したが、生徒の肯定的評価は96.5%と高い満足度を示している。危機管理に関して、4月から毎日、毎時間ごとの校舎巡回を実施し異変・以上の早期発見にも努めている。避難に関して、年度当初に各クラスの避難経路を確認したが理解できていない生徒も複数みられた。今後、より周知徹底していく必要がある。	A
	安全教育の更なる充実	安全教育に関する講話や訓練を年6回実施するとともに、教職員の危機管理研修を行う。	生徒アンケートで、「今回の講話・訓練は役に立ったと思いますか」の肯定的評価の割合 4：90% 以上 3：80% 以上 2：70% 以上 1：70% 未満	4		
ICT教育	ICT教育のより一層の推進	「Road to 2025」を共有し実践する。	教員・生徒アンケートで、「Road to 2025」の各項目の達成率 4：90% 以上 3：80% 以上 2：70% 以上 1：70% 未満	3	○ 「Road to 2025」の各項目の「できる」、「だいたいできる」の割合は83.1%であった。教員のICT活用率及びスキルは格段に向上した。さらにスキルアップを図る必要がある。次年度は、総合学習や総合探究にICTの授業を取り入れ、生徒のスキルアップ、モラルの向上を図りたい。	B
学校事務	補助金の有効かつ計画的な運用	特色教育補助金募集に対して積極的にエントリーする。	「特色教育実績額」の増加割合 4：基準値の4% 以上 3： // 3% 以上 2： // 2% 以上 1： // 2% 未満	4	○ 補助金の申請については、幹部会で情報共有を行い意見を集約・反映させた。今年度は申請スケジュールに余裕がなく、教職員全体での協議が十分ではなかったため、今年度中に次年度の計画を進めておく必要がある。 ○ 会議等の資料は、各自のタブレットで共有するなどしてペーパーレス化に努め、使用枚数については対前年比6%減だったが、用紙代については燃料費高騰による値上げの影響を受け、20%の増加となった。ペーパーレス化への取組は継続しつつ、用紙種類や購入方法を検討する必要がある。 ○ 昨年度比17.6%増と目標値の範囲内に留めることができた。庶務厚生部・生徒部・事務室・生徒会の連携のもと省エネ意識の醸成に努めてきた。全校レベルでの活動を行うために、適切な情報共有と生徒会のスケジュール管理に努めていく必要がある。	B
	経費の抑制	毎月の経費データを分析し、経費削減の数値目標を設定し取り組む。	コピー用紙削減率 4：基準値の12% 以上 3： // 8% 以上 2： // 4% 以上 1： // 4% 未満	1		
		※ 評価基準については、コロナウイルス感染症への対応を考慮して設定。	生徒一人当たりの年間電気使用量 4：基準値の18% 増以内 3： // 20% 増以内 2： // 22% 増以内 1： // 22% 未満	4		

## 5 次年度への提言

### 【学習指導】

- 基礎学力の定着をより一層図るために、生徒の定着状況を適切に把握し、常に数値目標を意識しながら各教科担当が教育活動を行う。
- 学習アプリ「Monoxer」、「MEXCBT」を授業や課外等で活用し、模試・定期試験等で検証する。
- 新学習指導要領に基づいた教育活動を進めるために、ルーブリックブックを活用し教育活動の検証・改善を行う。カリマネ通信により、生徒へのアドバイスの重要性やその方法・事例を教員に周知する。
- 慶進コンピテンシー12」の育成に向けて、生徒の自主的な探究活動を深化させるため、コース・教科・行事・特別活動等での実施状況を把握する。

### 【生徒指導】

- 自主性・自律性の育成に向けて、学校行事の更なる内容の充実を図る。
- 生徒が、スポーツ活動・文化芸術活動へより主体的に取組に取り組むことができるよう、部活動の指導方法の工夫・改善や環境整備に努める。

### 【キャリア教育】

- 生徒の進路選択における主体性を育成するために、先輩の体験談・社会人講話等を効果的に設定し実施するとともに、各コースと連携し、適切な時期に効果的な進路相談を実施する。

### 【人権教育】

- 人権意識の高揚を図り、思いやりの心を育むために人権教育に係るさまざまな教育活動をとおして人権尊重の意識を高め、生徒一人ひとりを大切にすることを組織的・計画的に推進する。

### 【地域連携活動】

- 地域社会への貢献をとおした学びを推進するために、ボランティア活動・郷働ネットにおける地域貢献活動を推進する。

### 【健康・安全教育】

- コンサルテーションの充実に向けて、カウンセリングを希望する生徒(保護者)のSCによるカウンセリング満足度の向上を図る。
- 安全教育のさらなる充実に向けて、学校安全計画を基に教育活動を行う。当年度の3月までに当年度版の修正を行い、次年度学校安全計画を作成する。  
また、令和6年度危機管理マニュアルの趣旨・内容については4月当初の職員会議で共有し、それをもとに教育活動を行う。令和7年度危機管理マニュアルは3月までに見直し、修正する。

### 【ICT教育】

- ICT教育のより一層の推進に向けて、「Road to 2025」を共有し、全教職員が今年度以上に実践できるようにする。  
また、デジタル教科書をこれまで以上に有効に活用するために、教務部との連携を図る。

### 【学校事務】

- 教育環境の充実に向けて、補助金を有効かつ計画的に運用する。
- 経費の抑制に向けて、具体的な経費削減の数値目標を設定し目標数値を実現する。